

確かな学力を身につけ、心豊かで、
主体的に自己の進路を選択・決定できる生徒の育成

I 主題設定の理由

現代社会においては、国際化、情報化、少子高齢化が急速に進み、社会が急激に変化しつつある。このような変革期を生きていく生徒には、変化に対応し、主体的に行動できる自己の確立が強く求められる。そのために本校においては「確かな学力」と「豊かな心（自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や、物事に感動する心など豊かな人間性）」をベースに「主体的に自己の進路を選択・決定できる力」の育成を目指して本主題を設定した。

II 研究の内容

1 学校教育全体を通じたキャリア教育の進め方の研究

- (1) キャリア教育推進のため、講師を招き教職員の研修を図る。
- (2) 望ましい職業観や勤労観を育成するためどのような取り組みが有効かをさぐる。(2学年総合で実施する「職場体験」を中心に)
- (3) キャリア教育の推進のために地域人材の活用や、キャリアアドバイザーの活用を図る。

2 基礎的、基本的学習内容の定着を図るための研究

- (1) 大和中生の学力実態の分析
ア NRT, CRT, 新体力テストの結果と教師の観察から
- (2) 教科学習において基礎的、基本的内容を定着させるための指導方法、指導形態の工夫
- (3) 大和タイムの活用
- (4) 家庭学習の指導

3 豊かな心の育成を図るための研究

- (1) 学級集団づくり
- (2) 生徒理解と生徒への心理援助の仕方（SCなどを活用して）
- (3) 学校行事、道徳等を通しての豊かな心の育成

III 成果と課題（○印が成果、●印は課題）

1 学校教育全体を通じてのキャリア教育

- 講師（指導主事）を招いての研修会により、キャリア教育の全体像をつかむことができた。
- 職場体験の事前学習としてキャリアアドバイザー（県産業技術短期大学）による指導が行われた。

- 2年生の職場体験は5日間行われたが、貴重な体験を通じて、生徒が成長し、望ましい勤労観、職業観の育成に有効であった。
 - 各学年の発達段階に応じた取り組みがなされた。
 - 職場体験学習の期間や時期、体験受け入れ先の開拓など、来年度へむけ考えていかなければならない。
 - 3年間を見通すなかで、キャリア教育を実践していくために、指導計画などをさらに改善していく。
- 2 基礎的、基本的学習内容の定着
- NRT、新体力テストなどの結果と各教師の観察をもとに、生徒の実態把握と問題点を考察し、各教科の実践にいかした。実践の結果（5教科の）CRTを実施することで検証し、基礎的、基本的学習内容の定着度合いをはかったり、客観的に分析をすることとした。
 - それぞれの教科で、各学年の実態に合った指導方法や指導形態の工夫、改善が行われていた。3学年を対象にした6教科の授業公開で各教科の取り組みが示され、他教科の実践から学ぶことができた。
 - 大和タイム（火曜の3：00～3：50の放課後帯）は学力の補充時間として定着してきている。
 - 家庭学習の指導については、各学年、生活記録ノートや定期テスト前学習取組表などを使い指導してきた。しかし、定期テスト前には家庭学習時間が確保されるが、日常的に習慣化させるという点では不十分であった。家庭学習を習慣化させるための指導法をさらに工夫していく必要がある。また、保護者の協力も不可欠なので、様々な機会に呼びかけていくとともに、学校と家庭が共通理解し取り組めるような具体的な方法も考えていきたい。
 - 各生徒が今より高いレベルを目指し、努力を継続していけるように個に応じた指導と、個に返す指導のあり方を考えていく必要がある。小規模校の特徴をいかしきめ細かく個に対応することで、一人一人の生徒に高いレベルの学力を身につけさせたい。
- 3 豊かな心の育成
- 各学年で工夫して、学級集団づくりが取り組まれていた。
 - SCによる、全校生徒の面接とその後の教師とのコンサルテーションは、生徒理解のために大変有効だった。
 - アサーティブな言い方をテーマにした道徳の授業研究が行われ、生徒のコミュニケーション力について研修ができた。
 - 人間関係が狭い範囲で展開される本校では、生徒は相互の葛藤を恐れる傾向がある。道徳、学校行事などあらゆる場面で個々の生徒のコミュニケーション力を高める取り組みをしていきたい。

（研究主任 海沼春彦）